



**きっかけと変化**

「高校3年生の秋に自分のやりたいことはピアノだと気付いた」と八重尾さん。しかし、既に本学への入学が決まっていた、自分の進む道に悩んだという。親に相談すると「ピアノはやりたいときにやればいい」と言われ、悩んだ末に本学へ入学しました。

大学2年生の時、現在の道に進むきっかけとなることとなります。

ピアノは好きだが、人前で演奏するのは苦手でした。ある日、母親に一枚の用紙を渡されます。それは加古川市で行われる第1回加古川リバーファンタジー・イルミネーション・イメージングコンテストの応募用紙でした。イルミネーションに囲まれた加古川駅のイメージに合ったオリジナル曲を作曲演奏するコンテストです。「出たくなかった。出場しても恥をさらすだけだと思ったので」。しかし母親の強い後押しで出場を決意。作曲し演奏してみると、予選を通

過し本選でグランプリを受賞。翌年もまたグランプリ。「1年目は何も分らないままのグランプリだったが、2年目は自分の曲と演奏に自信を持つことができた」と内面の変化を語ります。「3年目も出場しようとしたら他の出場者に優勝させてやってくれと断られたんです。その代わり特別ゲストとしてプロのサクソフラス奏者と演奏する機会を得ました」。その時の心境を「ずっと一人で演奏していたから緊張した。まして相手はプロ。迷惑をかけてはいけないと必死でした」と語ります。それ以後、さまざまな人と演奏する機会が増えました。場数を踏むたびに、ピアノを弾き作曲することは喜びだと気づき、かなえない夢がちらりと見えました。

**道の選択と現在**

大学4年生になり就職活動を始めました。「音楽の道に興味はあったが現実味がなく、かといって企業には特に興



「作曲にしても演奏にしても過程がおもしろい。ひとつが終わると次のステップへ進めて、自分の成長を実感できるのが魅力」と選んだ道を歩み続けています。

**これから**

「聴いてくれる人が、音から景色を思い浮かべられるような音楽をつくってきたい」と今後の目標を話す。さらに「今までピアノを通して出会いを大切にしながら、これからもたくさんの人とつながっていききたい」と語ります。

今秋アメリカで演奏することが決まり、活動の幅を広げる八重尾さん。「新しいことに挑戦するのはプレセントの箱を開ける感覚に似ていてワクワクします。不安はありません」と思いを語る彼の目は希望に満ちていました。

(学生編集スタッフ 時井勇樹)



RYUKAな人

八重尾雄太さんは現在、ピアニストとして日本各地で活動しています。今秋にはアメリカで公演することが決まり活動の幅を広げています。「この道を選ぶまでに悩みもあったと語る彼は、何を思い感じてきたのか。彼がピアニストになるまでに歩んできた道と現在、これからの語っていた

**はじまりは**

ピアノを小学3年生から習い始めた八重尾さん。しかし6年生の時にやめたといします。「レッスンはクラシック曲ばかり。ピアノってこれだけかと思いき、おもしろくないと感じた」。そんな彼に転機が訪れます。

高校生の時、ラジオから聞こえてきたピアノの演奏に衝撃

を受けたといします。「聴いただけで映画のワンシーンのような映像が浮かんだ。こんな音楽を自分もつくりたいと思った」。譜面台に国語の教科書を置き、内容から浮かぶフレーズを弾くことから始め、絵画や写真のイメージに合う曲を作り、音を消したテレビの映像に合わせて即興演奏もしました。

「遊び感覚でやってたんですけど、このころからピアノを好きになれて、楽しく感じるようになったんです」

八重尾 雄太さん

2005年度 情報学部卒業

1-2 RYUKAな人 八重尾 雄太さん

3-4 本日、本日和。 5 モノアイ ~物愛~ 住 政二郎先生

6 クローズアップゼミ 東淳一ゼミ

7 RSP×RYUKA DININGコラボ企画 ~ショック!赤字覚悟の学ショック!!~

8 はじめてのおりょうり

9 流行祭2010 扉 ~未来へのStart Line~

10 この店知っとお? 洋食の朝日

11-12 RYUKAの“今”が見えてくる。 NEWS

12 サークル企画 プロジェクトC ハンドボールサークル

13 『題』 ~RYUKA大生の現在~

14 コラム 編集後記 裏表紙 流科百景 Autumn 2010